

北信教育事務所だより

第3号
令和3年7月15日

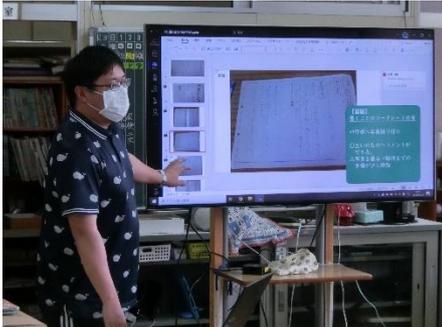
共に拓く

～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

出前講座・ゾーン訪問の様子から 始まっています！ 1人1台端末の利活用

皆さんの学校では、1人1台端末の利活用が始まっているでしょうか？

5月に伺った常盤小学校では、半分の先生方が既にクラウドアプリを体験したことがあり、さらにその半分の先生方が授業で既にお使いいただいているという状況でした。



研修前半では、実際にクラウドアプリを体験していただきながら、「同時共同編集のよさ」を感じていただく場面を設けました。また、後半は「授業のどのような場面で利活用できそうか」について、クラウドアプリの共同編集機能を活用しながらアイデアを出し合っていました。

【クラウドアプリを利活用できそうな場面のアイデア】

- 「国語の『モチモチの木』で登場人物の気持ちを考える場面で使ってみたい」
- 「算数の『分数の割り算』で割り算のやり方を図や式に書いて説明させたい」
- 「社会の『地域探検』でグーグルマップを使った振り返りができそう」など



このように、明日からの授業で利活用できそうな具体的なアイデアがたくさん出されました。また、最後に情報教育係の原先生から実践を発表していただきました。校内で既に実践されている事例は、子ども達の実態を知る先生方にとって、より利活用の見通しをもつことにつながっているようです。

続いて、実践が進む他校の取り組みについてもご紹介します。

既に実践が進んでいる学校における

1人1台端末やクラウドアプリの利活用をスタートさせる段階の工夫

- 朝の健康観察をアンケートアプリで入力するなど、子どもが毎日少しずつ使う場面を設ける。
- 教師も校務の中で使用していくことで、利便さを体感するとともに活用のコツをつかみ指導に活かす。
- 職員会や学年会などの最後に、15分程度の短い研修を毎週位置付ける。
- 教師が使い方を熟知してからの導入ではなく、使い始める中で子どもと共に学んでいく姿勢で。

また、北信教育事務所では、6月29日に教育クラウドミニミニ研修「フォームの使い方」と題して、オンラインでの研修を開催しました。

そして、好評につき第2弾の開催が決定!!!

第2弾

「付箋アプリ (Jamboard) の使い方」

8月5日 (木) 15:00~15:30

申込み方法等、詳しくは添付のチラシ参照



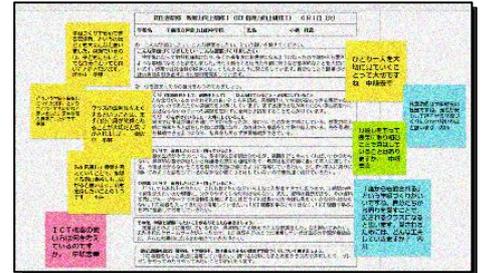
初任者の先生と語る 自己課題



5月の初任研で「学級づくり」と「授業づくり」は両輪であることを学んだ初任者の先生方は、6月1日の初任者研修「教師力向上研修Ⅰ」を経て、“自己課題”を設定しました。「学級づくり」と「授業づくり」で、大切にしていること、心掛けたいことをまとめつつ、改善したいことや困っていることについて考えました。

今、初任者の先生方は、研修を受け身のものではなく、自分の成長の糧として捉え、1学期後半に取り組みたい“自己課題”をもつことができています。ある初任者の先生は、「子どもの意見で進む授業づくり。子どもの疑問や知りたいという願いから授業のめあてを立てたい」と課題を掲げました。

さて、校内の先生方、自校の初任者の先生はどんな“自己課題”を設定しているのでしょうか。学年会や教科会、研究部会等の折に話題にしてみてください。きっと、校内の先生方の“今”を見つめるきっかけにもなることでしょう。初任者の先生方は、今後も、各自の課題解決に向けた実践に取り組んでいきます。そうした初任者の先生の思いをめぐって、若手の先生方、ベテランの先生方、みんなで今の“自己課題”を語り合うひとときを共有してみたいかがででしょうか。



初任研において自己課題決定に向けての討議は Google アプリ Jamboard を使って行いました。

学校訪問で出会った

キラ☆と輝く子どもと先生の姿を紹介します

Hさんのやる気を引き出した子どもと教師の関係性

小学校3学年 算数 単元名「1万をこえる数」～問題の解き方を、全体で共有する場面～

日頃から、「わかる」「できる」が実感できる授業づくりに取り組んでいるA先生。算数の1万をこえる数の大きさを比べる授業では、子どもたちは筆算を使ったり、千の位の数を比べたりしながら、自分の考えをノートにまとめました。子どもたちは、自分のまとめをChromebookで撮影し、ロイロノートを使って撮った画像を先生に提出しました。A先生は、まとめが映し出された画面を確認しながら子どもたちに発表を促し、様々な考え方をクラスで共有しました。そして、A先生が「みんなから、たくさんのアイデアをもらった」と話し、次の活動に移ろうとしたその時です。それまで一言も発しなかったHさんが「私、まだ画像（ロイロノートに自分の考え）を出していない」と、自分の考えがみんなと共有できていない残念な気持ちを先生に伝えました。するとA先生は、Hさんの気持ちを汲み取り、「出してね」と優しく語りかけ、画像が提出されるのを待ちました。周りの子どもたちもHさんに駆け寄って手伝い、無事に送信できるとHさんは満足そうな表情を浮かべました。



その後、A先生が「どちらの数が大きいと聞かれたら、筆算をしなくても比べる方法はないかな」と全体へ問いかけ、発表を促しました。数人の子どもが発表した後に、Hさんも友達の意見に付け足すように「私はCさんのように、位を分けて比較した方がよいと思う」と発言しました。先ほどのA先生の温かい姿勢がHさんのやる気を引き出し、自分から発言する姿につながったことが伺えました。

その後、A先生が「どちらの数が大きいと聞かれたら、筆算をしなくても比べる方法はないかな」と全体へ問いかけ、発表を促しました。数人の子どもが発表した後に、Hさんも友達の意見に付け足すように「私はCさんのように、位を分けて比較した方がよいと思う」と発言しました。先ほどのA先生の温かい姿勢がHさんのやる気を引き出し、自分から発言する姿につながったことが伺えました。

第1回日々の授業改善研修 【臨任研】5月24日(月)

4会場に分かれて、合計51名の先生方にご参加いただきました。授業力を向上させたいという目的を明確にもった先生方にとって、子どもたちのために、明日の授業をどうしていくのか多くのヒントを得た研修になりました。



語り合う姿



授業づくりのポイントは
3つのいい「ね」

課長講話

「魅力ある授業づくり」知らないことを知る喜びを感じさせる授業、子どもの立場に立った授業について考えました。



子どもとともに課題を設定するなど、授業づくりの基礎・基本を学ぶことができました。



課長講話を聞いて、「授業がもっと良くなる3観点」の大切さに改めて気が付きました。問いを意識した導入から、メリハリのある授業構成を考えていきたいと思いました。



グループディスカッションでは、日々の授業の悩みや課題を共有しました。その課題解決に向けて知恵を出し合う姿がありました。



参集のよさを実感

昨年度は新型コロナウイルスの影響で、集まっていた研修ができなかったため、顔を合わせて直接声を聞きながら研修ができたことがとてもうれしかったです。



先生方と多くの授業のヒントを共有しました。第2回、3回と続きますが、具体的に授業づくりを行っていくのが楽しみで仕方ありません。



第2回日々の授業改善研修は、7月30日(金)に行います。授業実践に向けた具体的な取組について考えます。また、今回は「保健教育」の講座も開講します。申し込み締め切りは16日(金)です。多くの先生方のご参加をお待ちしています！

学びの改革に求められる要件

奈須正裕先生(上智大学教授)の講演に学ぶ 6/17(木)

全ての子どもは生まれながらにして

「有能な」学び手=アクティブ・ラーナー

- 適切な環境さえあれば、子どもは環境に関わり学ぶ
- 教師が横にいなくても、学び進められる子どもに



個別最適な学びの2つの意味

- 一人ひとりにあった教材・学習時間・方法等の柔軟な提供
- 自分に最適な学びを自力で計画・実行できる子どもの育成



自ら学び進める力が育てば、協働的な学びも、子どもたちだけで進められる

カレーが作れば、クリームシチューも作れる

- 教師がその都度1から教えれば良いという訳ではない
- 「あれが使えるんじゃない?」と自ら学ぶことができる子どもに

「なるほど、そうか!」と納得できるから、見方・考え方という枠組みが自分の中に残っていきます。それをしないで単に覚えようとするから、すぐに忘れてしまい、何も残らないのです。

そのために、授業の中で「この前もやったよね」「この前学んだことを使えばいいんだよね」などの気づきを与える促しを大切にいきましょう。

個別最適な学びは、教師の都合で最適化するのではなく、子どもの都合で、子どもの文脈で行くことが重要です。

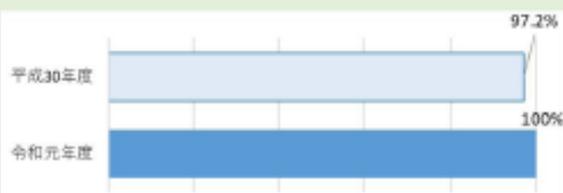
子どもの学ぶ力を信頼し、教師は伴走者でありたいです。

「学校の働き方改革」の今

長野県教育委員会では、平成29年11月に全ての公立小・中・義務教育学校の働き方改革を推進するために「学校における働き方改革推進のための基本方針」を策定しました。その取組の成果を一部ご紹介します。

<夏期休業中に学校閉庁日を設定した小・中・義務教育学校の割合>

2 長期休業期間においては、一定期間の学校閉庁日を設定



達成

先生方の学校でも夏期休業中の計画が立てられ、学校閉庁日がすべての学校で設けられていることと思います。こうした取組の成果をこちらからご覧いただくことができます。



https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/kyoshokuin/documents/seika_20210129.pdf

「学校における働き方改革推進のための基本方針」は、「すべての学校、すべての教室で、質の高い授業を実現するために、学校と教員が担うべき業務を明確にし、分業化・協業化・効率化を進め、長時間勤務という働き方を改善すること」を目標に、20の具体的な取組を示しています。

学校人権教育研修・連絡協議会

5月20日(木)
上山田文化会館
総合観光会館

内容

【学校人権教育研修会】

- ・ 県の方針説明
- ・ 講演会演題

「今、伝えたいこと ～自らの生き方を
問われ続けた人権・同和教育～」

講師 元長野県同和教育推進協議会会長
中島 敏 さん

【連絡協議会】

- ・ 部落差別問題の学習をどのように進めて
いるか

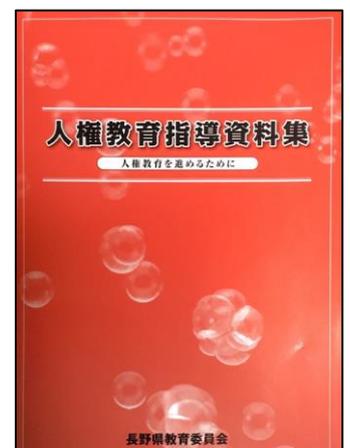
新型コロナウイルス感染症に関わる誹謗中傷、差別や偏見などのニュースが、メディアなどでも大きく取り上げられている今、子どもの生活の中に人権教育を位置付けていくことの重要性が一層増してきています。

誹謗中傷、差別や偏見をしてはいけない、とただ伝えるだけではなく、「自分の言動は相手を傷つけていないか」「自分がその人の立場だったらどう考えるか」「自分は何ができるのか」等、人権教育を通して、子どもたちが人権問題を自分のこととして考える学びを進めていきましょう。

参会者の「感想・今後に生かしたいこと」より

	具体的な言葉の一つひとつに重みを感じ、ハッとさせられました。「知らないと気付けない（気付かないではなく）」という言葉が忘れられません。子どもたちのために、自分自身のために、人権同和教育のあり方を問い直したいと思いました。
	ただ、いじめや差別はいけないのだと不当性に気付かせるだけではなく、 実際に行動できる子どもを育てて行きたい と思いました。そのために、日々の授業を大切にするとともに、私たちがどのように子どもたちと接するかが大切であるとあらためて実感しました。
	中島先生のお話の中の「2020.12」などの日付に、 部落差別が過去のものではなく、現在にも確かに存在し、それが大きな影響を及ぼしている ことを知り、今も同和教育が必要だということを学んだ。知ろうとしなければ、他人事になってしまう現代。自ら知ろうとすることの大切さを感じた。
	教科書無償配布の歴史は、今まで知りませんでした。知るということはすごいことだと思いました。 誰かの努力で今があること、たくさんの思いが込められた無償配布であることを、子どもたちにも伝えたい と思いました。

人権感覚は、自然に身につくものではなく、努めて磨くことにより高まるものです。各学校に配布されている「人権教育指導資料集～人権教育を進めるために～」には、人権感覚チェックリスト(p.31)が資料として掲載されています。活用してみてください。



人権教育指導資料集
～人権教育を進めるために～

ちよつと使いたくなる研修

第2弾

好評につき

教育クラウド 三二三二研修

「使ってみたい」と思いながら
まだ一步を踏み出せない
「付箋アプリが使えると聞くけれど、
どんな場面で使えるの？」
そんな先生方はいませんか？

8月5日（木）

15：00～15：30

ジャムボード

「付箋アプリ(Jamboard)
の使い方」

Zoom上で開催。14：50から入室可能
ミーティングID：882 8319 0804
パスコード：0805

北信教育事務所 学校教育課

〒380-0836

長野市大字南長野南県町686-1

tel 026-234-9551

Eメール hokushin-s@pref.nagano.lg.jp

2

研修メニュー

- 1 付箋アプリの体験
(Jamboard)
- 2 授業での利活用を
考える
- 3 実践事例の紹介



【申し込み方法】上記QRコード、または
下記アドレスからお申し込みください。
<https://forms.gle/Uaows1oxQHimzAFTA>
メールにてお申し込みの場合は、「学校名」
「お名前」をお知らせください。
締切：7月28日（水） 定員：20名
*本研修に参加することで、Microsoftの
Whiteboardに应用可能です。
*Zoomの操作に不安がある場合は、
お気軽にご相談ください。（担当：田中）

第2回わくわくスポーツセミナー 兼障がい者スポーツ研修会

ひとりひとりが楽しむことのできる運動・スポーツ指導 ～知的障がい・発達障がいを対象としたアダプテッド・スポーツの理解と実践～

講師 東海大学 体育学部 体育学科 教授 内田 匡輔さん



スポーツは「みんなのもの」です。スポーツは、その人の適性や関心に応じて行うことができます。このスポーツをするにあたって、ルールや用具、個人の状況によって作り変え、誰でも参加できるスポーツを「アダプテッド・スポーツ」と呼びます。このアダプテッド・スポーツを学び、実践できるようになることで、より広くいろいろな人たちとスポーツを共有し楽しむことができます。今回の講演では、知的障がい・発達障がいの方を対象とした指導を通してスポーツの可能性を広げてもらいたいと思っています。

令和3年8月9日(月)開催

会場 長野県障がい者福祉センターサンアップル

- 主催 北信教育事務所 長野県障がい者福祉センターサンアップル
後援 北信地区総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 長野保健福祉事務所
北信保健福祉事務所 長野県障がい者スポーツ協会 長野県障がい者スポーツ指導者協議会
期日 令和3年8月9日(月) 8:45 ~ 12:30
募集人員 60名
受講料 無料
対象者 幼稚園・保育園・小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校関係者、スポーツ推進委員、地域のスポーツ指導者、放課後子ども教室・児童クラブ等関係者、障がい者スポーツ指導員、健康運動指導士、体育施設管理者、健康運動実践指導者、障がい者関係施設職員、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等
持ち物 運動着・運動靴・タオル・飲み物・下足袋 等

参加申込み、問い合わせは北信教育事務所 生涯学習課まで

7月28日(水)までに申し込みをお願いします。【担当 土橋】

〒380-0836 長野市南長野南県町 686-1 TEL 026-234-9552 FAX 026-234-9557

電子メール hokushinky@pref.nagano.lg.jp (FAX・電子メール可)